



永原学園地域子育て支援センター
さんこう・ぽぽらだより
 令和4年5月発行 第181号
 認定こども園西九州大学附属 三光保育園
 TEL:0952-31-6877

5月の生活目標

「生活のリズムを整えましょう」

- ♪決まった時間に食事をする
- ♪早起きを心がける

♪育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。お気軽にお申し込み下さい。

(平日の9:30~17:00まで)

※毎月第3火曜日の14時~16時までは、西九大短大部教員による、食育相談を行っています。事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。

おりがみ遊び

30年程前、アメリカの大学に招聘されていた友人宅を訪れた際に、その子ども達が通う現地の小学校に我が子(小3)を1日受け入れて頂き、現地の子ども達と交流させていただきました。英語はできませんが、佐賀で外国の方達とは親しくしていたので、手振り、身振りでコミュニケーションはとることができていました。そこで、先生から何か日本のことを教えてほしいといわれ、小3の我が子は折り紙を使って、風船と鶴を折って見せました。標準的な日本の小学生ができるレベルです。子ども達から“すごい!”と褒められ、満面の笑みで照れていたことを思い出します。昨年、幼稚園実習で訪れた学生の中に、折り紙の達人とっていいほどの腕を持つ男子がいました。どうしてそれほどの技術を持つのか尋ねたところ、自分はおばあちゃん子で、両親が働いている時間はおばあちゃんと過ごしていたそうで、折りたいものを本から探した彼にその折り方を根気よく丁寧に教えてくれたのだそうです。

新学期になって、各室で子ども達が先生を囲んで折り紙を折っている姿を見ると、何だかホッとします。日本の誇るべき世界共通語「ORIGAMI」の文化が自然な形で传承されているのです。

さて、ぽぽらの活動が始まります。折り紙文化を先生と一緒に親子で楽しんでください。

(三光保育園長)



☆「なかよしミックス」に遊びにきませんか!

就園前までのお子様と保護者の方が一緒に参加して親子で楽しく遊ぶ集いの場です。

★日時 ①5月25日(水)10:00~12:00 ②5月26日(木)10:00~12:00

内容:じゃがいも掘りの体験 (対象:2歳以上)

場所:佐賀市金立公民館駐車場(現地集合・現地解散)

持ってくるもの:帽子、手袋(軍手)、シャベル、おしぼり、お茶、おやつ、着替えなど

※掘ったじゃがいもは買い取れますので、小銭と袋を準備して下さい。

※詳しくは、ホームページをご覧ください。

☆5月・6月の「フリーテイ」について

保育園の支援センターを下記の日程で開放します。

日時:5月10日(火)・11日(水)・13日(金)

6月20日(月)・21日(火)・23日(木)

10時~11時



☆5月・6月の講座について

5月16日(月)…環境講座「アロマを楽しみましょう」

6月15日(水)…リフレッシュ講座「ダンスをしましょう」

☆6月の「子育て支援事業」のお知らせ

6月6日(月)10:00~11:00 …赤ちゃんの日「ベビーダンス」(兄弟児の参加はご遠慮ください。)

6月7日(火)・8日(水)10:00~11:00 …1歳の日

6月9日(木)10:00~11:00 …2.3歳の日

場所:さんこう幼稚園保育園の運動場・支援センター

※すべての支援事業は、電話での申し込みが必要です。5月分の申し込みは、5月2日から受付けます。

6月分は、6月1日からです。どれも、先着10組です。★新型コロナウイルス感染症の状況により計画の変更や中止が予想されるため、お出かけの前にも必ず、ホームページで支援事業の有無をチェックしてください。

「シニアサロンぽぽら」…月に一回、地域の方にお越しいただき楽しいひと時をすごしています。

おしゃべりやモノづくりを楽しみませんか?

5月17日(火)・6月10日(金)10時から11時

子育て便り

「私のことは私が知っている」ことが大切です

西九州大学 子ども学科 教授 高尾兼利

大人が子どもを育てるとき、親がわが子を育てるとき、教師や保育士が子どもを育てるとき、成長してどんな大人になってほしいと願って育てるのでしょうか。大学の学生に「お父さん、お母さんからどんな人になってほしいと言われて育ちましたか？」と何度か尋ねたことがあります。「ヒトに迷惑をかけることがないようにになりなさい」。「社会に出て、ヒトの役に立つ人間になりなさい」。「自分らしく生きることができるようになりなさい」。このように言われた学生が多かったことを思い出します。どの願いももっともなことだと思います。

私は長年カウンセリングを続けてきました。その中で常に肝に銘じていることは、相談に来られた方の「自己理解」を促すことです。「自己理解」の進展がその人の生きる上での困難を和らげると信じています。自己理解は簡単なことではありません。人間は完全ではありません。どんな人でも、できないこと、弱いところ、悪いところがあります。もちろんその多寡は様々です。しかし、「完全でありたい」との願望はほとんどの人にあります。だから、できないところ、弱いところ、邪悪なところを自覚することをできるだけ避けようとし、避けようとするのも当たり前のことです。また、周囲の人はその人の現実を正しく評価するとも限りません。私たちは誰でも状況次第で違った行動や態度を見せます。そのことも当たり前のことです。その人のある一面をとらえて評価しているのに、その人の全体のこととして評価します。できるのに、できないと評価したり、強いのに弱いと考えたりします。その反対もあります。その人を正しく評価することは容易ではありません。正しく評価されることが少ない、それなのにその評価が評価された人の自己理解に影響を与えます。特に家族の評価は評価された子どもに大きな影響を与えることが少なくありません。現実の自己の姿に近い自己理解をすることが難しいことが分かります。

さて、最初の問いに戻ります。子どもを育てるときの私の願いは「自分のことは自分が一番よく知っていることを自覚し、現実の自分の姿をできるだけ正確に知ろうとする大人になること」です。子どもに対して次のような思いをもって関わります。あなたのことをあなた自身が知ることができるようになっていきなさい。何が好きか、何が怖いか、何が苦手か、何が得意か、どんなことに魅力を感じるか、何をしている時が一番楽しいか、……。自分を知って、「生きる喜び」をできるだけたくさん体験できるようになりましょう。皆さんの参考になればと思います。